

はるかぜ

袋井市の委託事業として「はるかぜ」が始まり8年目を迎えました。そして、袋井市の第2次障害者計画の区切りの年でもあります。ここまで順調に事業の継続が出来てきたことはひとえに皆様のお力添え、スタッフの協力があったからと思っております。ありがとうございます。

さて、袋井市は、平成30年度以降の第3次障害者計画の策定に、この放課後児童クラブの事業をどのように展開していくか存続を含めた検討に入りました。世の中の流れとして、放課後対策は放課後等デイサービスに一本化されつつあります。袋井市は平成27年4月に1か所だけだった放課後等デイサービスの事業所が、平成29年4月には5か所が開設され、さらに今年に入り3か所の開設があります。放課後児童クラブ3か所と合わせると現在13の事業所が子どもたちの放課後の場所として活動している状況になります。今後、市が放課後児童クラブについてどのような提案をするか未定ですが、今年度は、「はるかぜ」を運営している受託法人なごみかぜとして児童の放課後対策事業の方向性を出さなくてはならない重要な年となります。

私たちスタッフは、「はるかぜ」という多様な子どもたちの集団の中で、一对一のきめ細やかな支援を通じ、人と人がコミュニケーションすることの楽しさ・遊ぶことの楽しさを共に感じ、たとえ短時間であっても遊びに集中し、学校とも家庭とも違う場所で自分の考えや思いを主張できるようになってほしいと活動してきました。そして、「はるかぜ」が、子どもにとって楽しみの場であって、子どもが楽しい時間を過ごすことで母親の育児負担の軽減や気分転換につながると考えてきました。

しかし、放課後事業は、働く母親が増え、それを後押しするように放課後等デイサービスがふえ、就労を問わず日数制限なく利用することを勧める流れがあたりまえのようになりつつあります。サービスとして利用をするとともに学習面へのサポートの希望も多く出されるようになりました。さまざまな要望から放課後支援がどこに向かっていくのか、一旦立ち止まる必要性を感じている方は少なくないのではないのでしょうか。

放課後事業が、子どもの楽しみ・成長を促す面と母親（家庭）の負担軽減の目的を推進しながらも、一方で家庭の力、母親の力の育みなどに目を向けることがされてきていないように感じるのです。

放課後をどのように過ごすか？放課後支援に求められるものが多岐にわたるようになってきた今、「はるかぜ」は子どもの成長のどの部分に焦点をあて、どのような関わりが出来るか、特色をはっきりと示すことができないとこの流れに呑み込まれてしまいかねません。

どこに向かっていくか、みなさまからご意見をいただきながら次の一步を踏み出していきたいと思っております。よろしく願いいたします。

（文責：鈴木 直子）